

WHAT IS BALNIBARBI'S GOAL FOR REGIONAL REVITALIZATION OF JAPAN STARTING WITH “EAT” ?

第2編 トップメッセージ ～食から始まる日本創再生～

バルニバービが目指す 日本創再生とは？



第1章 | 会長メッセージ

代表取締役会長 佐藤 裕久

30年の歩み、そして地方への思い

“地方創生”を意識するきっかけとなったのは、2011年に起きた東日本大震災でした。東北エリアからの食材の流通が止まる恐れがあり、日本全国さまざまな産地の食材を探し始めると同時に、地方には多くの魅力あるエリアが取り残されていることに気がつきました。滋賀県大津市における380坪の駅舎の全面改装、行政自治体との連携による様々なプロジェクトを経て、現在進めている淡路島西海岸の「Frogs FARM ATMOSPHERE」は「GARBCOSTA ORANGE」を始めとしたレストランが9店舗、「KAMOME SLOW HOTEL」等の宿泊施設が4施設と、開発面積は4ha以上、売上は8.7億円となりました。

我々の店づくりの根本は、「その土地や場所でしかできない何かを創出することで、そこに人が訪れ、時間を過ごして頂き、その地域に愛着をもち、さらには移り住み、地域とのコミュニケーションの中で街を育んでいく」ということであり、創業以来何も変わりません。今や淡路島も施設全体で年間25万人の来場があります。お店に来てくださる方々はお客さまでもあり、またサポーターとして我々の店や街での体験を通して共感し、発信してくださっています。

淡路島を皮切りに、我々が目指す“地方創生”のカチを全国に展開していくことで、日本全土の「バッドロケーション」を活性化させ、本来の自然豊かな日本とそこに住む人々の豊かな生き方に貢献できる「日本創再生」を実現したいと考えています。

なぜ「食」から地方創再生に取り組むのか？

人が住みたくなる街づくりと豊かな心の在り方の追求を

“地方創生”は、各地域がそれぞれの特徴を活かして自律的で持続可能な社会を創ること、とされていますが、“創生”という何ともなかったところから新しく生み出すという感じで、もともとお住まいの方やその街にも失礼だと僕は思うんです。

だから我々は「地方創再生」とうたっています。真の地域活性化とは、住む人、住みたいと思う人を増やしていくことにあります。利便性の向上はもちろんではありますが、住みたくなる街となったときに、はじめて「地方創再生」が成立していくのだと確信しています。そのためには、地域がコミュニケーションする拠点が絶対的に必要です。だからこそ観光開発ではなく、食を突破口に人々が豊かに生活し、コミュニケーションする場を創出することが必要なのです。

また都会に住むと様々な不安を感じるがあります。年金受給に関する将来の不安、食料不足やエネルギー不足に関す

る不安・・・様々な不安が漠然と人々の心にのしかかってきます。資本主義経済により一つの価値観における競争社会の中で、都会にヒト・モノ・カネが集まっていきました。しかしながら、大多数の人々は不安を抱え、今の生活を守るために働くことが必要です。このような価値観に縛られ、本来人々が持つべき豊かな心の在り方が忘れられているような気がしてなりません。

豊かさとは何か—そう問われたときに、金銭や物質的なモノではなく、僕は不安や心配事がなく、朝陽と共に起きて日が沈むと寝るような、自然にあらがうことなく生活できることだと思のです。例えば食料。庭で野菜を栽培することで、食料を蓄えることができ、心の拠り所になります。素人が農業ですべての生活を支えていくには難しい面もあるかもしれませんが、「余力」として自分や家族、ひょっとしたら近所におすそ分けできるくらいはつくれるかもしれません。



地方創再生を進めていくうえで「食」は大きな切り口である

なぜ我々のような「食」の会社に取り組むのか？をよく聞かれますが、「食」は地方創再生という切り口において、筆頭に入るコンテンツだと僕は考えています。一つは地元食材をつかうことにより、生産者の方との信頼関係やコミュニケーションが生まれ、参入を歓迎されます。二つ目は、食べ物屋は人が必要なビジネスなので、雇用及び移住を伴う採用が生まれてきます。つまりその地域に人を増やすことができるのです。そして何より「食」は生きていくうえでの根源であり、まさしく「食」の施設がない場所では、人は長時間滞在することをしません。この3つの理由により、地方創再生を進めていくうえで「食」は大きな切り口であるのです。

コロナ禍を経て、リモートワークが浸透したことで、地方に住んだり、2拠点で生活しながら働くなど働き方の選択肢も徐々に増えてきました。自分らしさとは何か、自分はどのように生きていくのか。そうすると今までとは違った考えが生まれてきています。我々バルニバービは人を引き付ける「食」を生業としています。美しい自然だけでなく、遊び、住まい、生活や営みをしていくための場づくり、それこそが本来の我々のビジネスの根本であり、豊かな心の在り方を感じていくための提案を行うことによって、一人ひとりにとって自分らしく過ごす場所となることを実現していきたいと思います。

「地方創再生」で実現したいことを教えてください。

ウェルビーイングな社会の実現に向けたバルニバービの提案

まずは**コミュニティの形成**です。日本では幸福感を感じにくいのが現実となっています。2022年3月20日に発表された最新の「世界幸福度ランキング2022」では、日本は54位と先進国の中では低い位置に甘んじています。中でも「他者への寛容さ」に関する評価が低く、コミュニティとの繋がりや社会参加といった精神的なところが持てないことが大きな課題となっているのではないのでしょうか。一方で1位のフィンランドはなぜ豊かなのか。確かに自然が豊かで福祉が充実しているという側面もありますが、「サイズ」の問題があります。国土は33.8万平方キロメートルと日本よりやや小さいですが人口は551万人と約20分の1となっており、コミュニティが分散しています。コミュニティは小さい方が参加している人々の繋がりが強まり、また様々なタイプのコミュニティが発生し、その相互交流が行われることで地域が活性化します。私たちの展開するレストランは人が集い、コミュニティの形成につながる機能を担って

います。またあえて地域にしがらみのない人間として、地域のコミュニティの交流のための企画を立案・推進することで小コミュニティの形成や活性化に貢献したいと考えています。

二つ目に**安心安全なインフラの整備**です。私が考える個人の自立に必要な要素は食糧、住居、エネルギーの3つであり、3要素が満たされることにより不安が解消されます。しかし、本当に必要な時にはお金では買えません。特に、日本の食料自給率は38%ですが、多くの家畜の餌や肥料が海外輸入品であること等を考慮すると、食料自給率は実質10%以下になると考えます。現状では国のみに頼ることができない中で、個人や企業が自力で取り組むことで「何とかできる」と気づくことが大事なのです。人々が安心して住むことができる住宅や自らの食料を確保することも考えた農業への取り組み、エネルギーの自給自足を目指した街づくりを目指して、地方公共団体やステークホルダーの皆様と協力して取り組んでいきます。



最後に、**サービスバリエーションの提供**です。気の利いたレストランやカフェ、お洒落な宿泊施設、レジャーやアクティビティをエリア全体で展開し、エリア丸ごとの開発を実施します。その中で、お客様は自らのライフスタイルにあったサービスやメニューをチョイスし、自分らしく過ごすことができます。都会において人々が抱えるストレスの中で、当社は最大限のテクノロジー（再生可能エネルギー、最新式の発電システム、蓄電システム、顔認証のシステム）を使い、瞑想・禅・ヨガなどウェルビーイングを体験できるような施設も提案していきたいと考えています。

経済成長と心の豊かさは決して比例しません。心の幸福の在り

方は生活に密着しているものです。それを支えるのに生活インフラとして食があり、食をベースに街として様々な機能と共に我々も発展していくために、今淡路島を筆頭に様々な地域での開発を進めています。未だ人々に気づかれていない宝の山が日本全国に存在します。日本全国でこのような街づくりを進めるうえで、企業としてどのように成長を遂げていくのか、そのためのファイナンスやアライアンスの仕組みも構築できるようになってきました。より多くの人々が楽しく、豊かに暮らせる社会の実現に向け、私たちは真の意味での「食から始まる日本創再生」を掲げ、新たな価値を生み出し続けてまいります。

第2章 地方創生における取り組み実績

バルニバービは街の未来を見据え、地域の人々と融合できる地域コミュニティの活性化を重視したエリア丸ごとの開発を行っています。私たちが取り組む地方創生のコンセプトは、『食から始める地方創生』であること、『精神的な価値の提案』を重視すること、『観光・商業機能とコミュニティ機能の両立』を目指すことの3つです。

食から始める 地方創生

バルニバービはなぜ、地方創生を食から始めるのか。それは、地方は一次産業が盛んであるため、食材調達やそれを活かすことができるレストランと親和性があるからです。また地域の皆様の憩いの場や話題性のあるレストランを出店することでエリア活性化に繋がります。

食材仕入

レストランには食材の仕入が不可欠です。当社のレストランは地元の食材をふんだんに使用し、地域経済を循環させているため、地域の農家や畜産業、水産業に関わる皆様より応援をいただくことができます。

憩いの場

レストランやカフェが生まれることにより、地域の皆様が集い、交流できる場所や空間を提供することで、地域のコミュニティ形成に寄与し、より住みたくなる街づくりを体感いただいています。

訪問者の増加

話題性の高いレストランのメディアや口コミによる発信はエリアの知名度アップにつながり、多くの来訪者を誘致する結果となっています。そのため、当該レストランのみならず、その地域全体の商業活動の活性化に寄与することで、地域の皆様の支持を得ています。

淡路島内で支えてくださる生産者様



五斗長（ごっさ） 営農 様

甘みと栄養がずっしりの玉ねぎを卸してくれている五斗長（ごっさ）は、淡路島の北西部にある集落の名前です。昔ながらの伝統を守った栽培をしています。



北坂養鶏場 様

純国産鶏をヒヨコから養鶏。はつきりと濃厚な黄身の存在を感じることができる「もみじたまご」と白身も強い「さくらたまご」の2種を扱っています。



淡路の島菜園 様

トマトにとって相性の良い気候と、徹底的に研究を重ねた栽培をしている淡路の島菜園。甘みと旨みのバランスのとれたミディマトの他、11月～5月に大粒イチゴも栽培しています。



淡路麺業株式会社 様

うどん屋として始まり、麺一筋創業110年の淡路麺業。素材本来のおいしさを引き出す小麦の力を生かした昔ながらの手打ち製法で生パスタを生産しています。

食をベースとした「面白い」街づくり

バルニバービはなぜ、地方創生を食から始めるのか。それは「食」には喉を潤す、腹を満たすという機能だけでなく、仲間とのコミュニケーションを活性化させるという機能があるからです。様々な年齢や職業の人がやってきて出会い、コミュニティが活性化し、その結果として街が発展していくことを食を通して実現したいと考えています。地方に住んでいると、大自然の景観や素晴らしい農産物、海の幸をはじめとした食材など、その土地ならではの良さを見落とししてしまう場合があります。一方で、不足しているもの、その土地にはないものを探し求めることがあります。私たちは地方で街づくりを行っていくためのコツは「ないもの探しはやめて、そして『あるもの気づき』をすること」だと考えます。私たちはその土地にあるものに気づき、それをみんなで楽しむ「面白い」に変えていきます。



地元の豊富な食材を使用し開発されたメニュー

1

地域住民がその街・エリアに求める「面白い!!」により、**行きたい店を創りだせる。**

2

その地域の特産物を使用した上質な料理により、「その町にしかないもの」地域の方々が**誇れる店を創りだせる。**

3

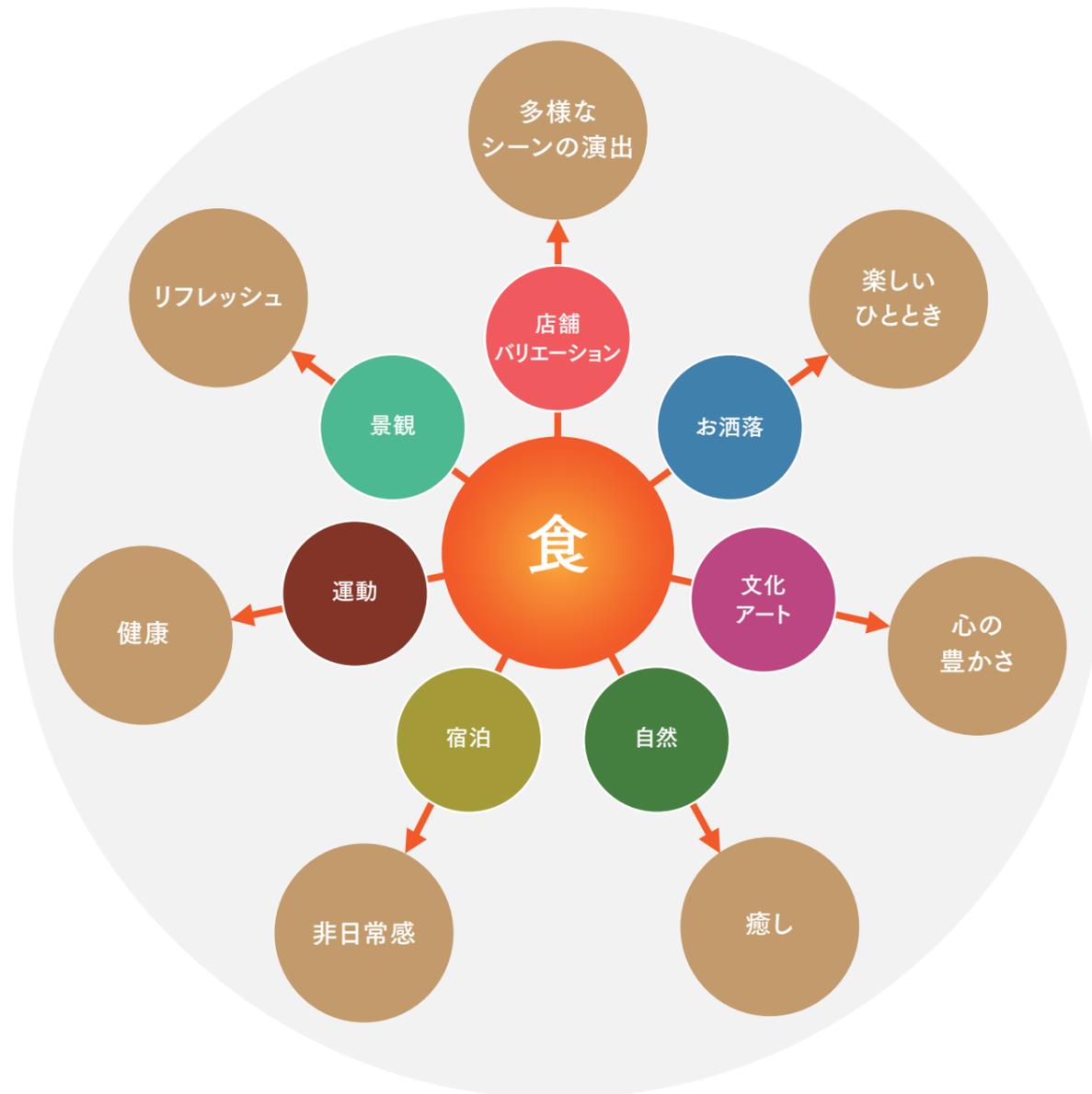
エリアが活性化する事により、多くの雇用を生み出せ、地域外からの人口流入により、交流が生まれ、**新たなコミュニティ形成となる。**



第3章 地方創生で目指す社会像

精神的な価値の提案

「精神的な価値」とは「物質的な価値」の対義語として定義しています。
すなわち、物質の量やその対価に対する価値ではなく、そのサービスのみならず、それに付帯するサービス全体についてお客様が感じられた楽しさ、嬉しさ、幸福感を含めた価値を指します。
これまでのレストラン事業では、ほっとする景色の見えるテラス席で季節を感じてリフレッシュしたり、お気に入りのスイーツを食べながら仲間と気ままに楽しいひと時を過ごしたりと、レストランの枠内で「精神的な価値」を提案してきました。
これからの地方創生では食をベースに人々に喜びを感じていただくことには変わりありませんが、食に掛け合わせる機能バリエーションを増やすことで、多種多様で洗練された選択ができる場所やメニューを提案してまいります。



観光・商業機能とコミュニティ機能の両立

バルニバービが目指す地方創生は、食をベースに観光・商業機能とコミュニティ機能の両方の機能を保有していることが特徴です。この二つの機能のシナジーが、「訪れる街」から「住みたくなる街」へと繋がることとなり、地方が活性化していくと考えます。

観光・商業機能	レストラン・カフェ・ホテル・宿泊施設、レジャー施設など、訪問者がそのエリアを楽しむことができる機能
コミュニティ機能	自然へのアクセス、社会参加、コミュニティとの繋がり、安心安全な住環境・食料の確保等、そこに住む人々が心豊かに暮らすために必要な機能



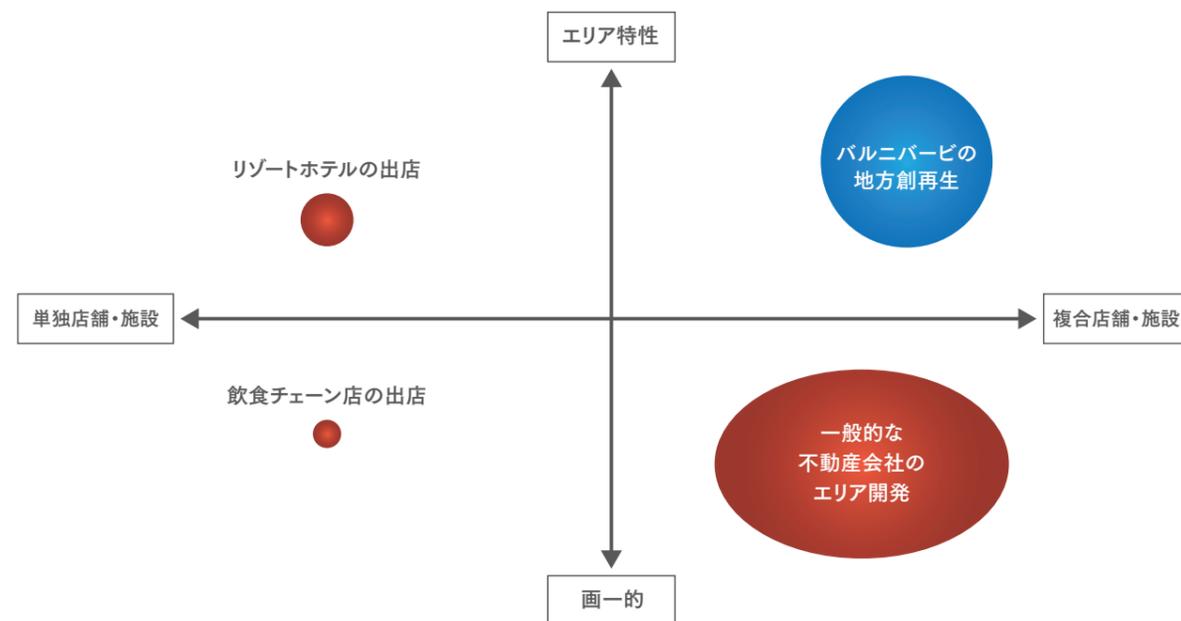
観光・商業機能とコミュニティ機能の両立で
「心のままに過ごす(生きる)場」を提案

第3章 地方創生で目指す社会像

観光・商業機能で大切にしていること

バルニバービの地方創生は、単に店舗を地方に出店するというのではなく、当社単独で集客力がある複合的な施設を展開できることが強みです。そのため、エリア丸ごとの開発が可能となります。まず最初に、集客力のあるレストランと長期滞在できる宿泊施設を展開します。その後、エリア特性にあわせて様々な飲食店やレジャー施設を併設していきます。その店舗・施設では、一過性の流行りもののコンテンツを集めるということではなく、エリアの良さを最大限に引き出す提案を行うことで、訪問していただいた人々にその土地独自の楽しさや面白さを感じていただくための多くの提案を行ってまいります。このように長期的な開発を進め、そこに必要なピースを一つひとつ組み合わせていくことで、そのエリアの魅力を十分に引き出し地域を活性化させ、エリア全体の不動産価値を高めたうえで、収益に繋げていくことを目指します。

その地域の特性を生かした経済の活性化



複合店舗・施設

単一の店舗ではなくバリエーションに富んだ複合的な店舗や施設を単独で開発する。



エリア特性を生かす店舗・施設

波音を楽しむレストラン、夕日を眺めながらお酒を嗜むバーなど、その土地ならではの面白さを感じることができる場所やサービスを提案する。



エリアの不動産価値の向上

人の流れがなかった場所に人の流れを作り、その土地の価値を高め、収益につなげる。

コミュニティ機能で大切にしていること

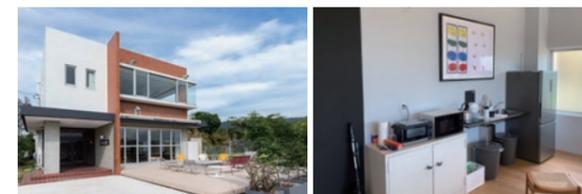
私たちは、人々が幸せを感じるために「自分らしく過ごす」ことは非常に大切なことだと考えています。そして、「自分らしく過ごす」とは固定概念や一般的な価値観に捕らわれることなく、自分にとって最適な環境を選択することだと考えます。地方には人々が自分らしく過ごすためのコンテンツがたくさんあるのではないのでしょうか。私たちは地方創生の取り組みの中で、地域の人々や地方に移住したいと考える人々の基盤づくりとして、ライフラインの確保と地域コミュニティの活性化を提案いたします。ライフラインの確保は、人間の尊厳の前提といえる、食・住居・エネルギーの3つの要素が重要だと考えます。地方では都心部より強固なライフラインを構築することが可能であり、今後、農業・住宅提供・エネルギー供給に関するサービスを提案していく予定です。また、人との出会いやふれあいを大切にいくため、地域コミュニティの活性化に向けて様々な企画を実施してまいります。

心豊かに暮らす場の提案 ～地域の人々や地方に移住したいと考える人々の基盤づくり～

その1 ライフラインの確保



バルニバービは自給自足型の農業に取り組んでいます。淡路島ではエリアの農地を活用し、地元農家様の支援のもと、スタッフ一同で農業に取り組んでいます。今後移住される方や訪問される方へのサービスも検討してまいります。



淡路島において現地の施設をリノベーションして社宅として活用しています。今後は、スタッフや移住してくる方、セカンドハウスや長期滞在型のシェアハウス等、人々が自分らしく過ごすことができる住宅の検討をしております。



今後提案する住宅では、太陽光発電設備・蓄電設備等により、クリーンエネルギーでの自給自足を目指します。

その2 地域コミュニティの活性化 (参照 P.59 住みたくなる街づくり)



地域でのお祭りを企画・実行することで地域の皆様に喜んでいただいています。地域の皆様が出会い、ふれあい、一緒に楽しむ場を提供することで今までなかった交流も生まれています。